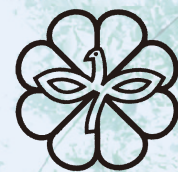


民児協だより



— 支えあう 住みよい社会 地域から —



真心を込めて
描いています



受け取って
思わず笑顔に



高齢者の皆さんと民生委員・児童委員を繋ぐ、「お誕生日カード」を届けています。

まなざし

秦野市の大根（おおね）地区民児協では、5年前より、ひとり暮らし高齢者や高齢者夫婦世帯を対象に『お誕生日カード』をお届けしています。今年は750枚作成しました。

絵心のある民生委員・児童委員が、明るく楽しく思わず笑顔になるような記憶に残る絵柄を、真心込めて手書きをし、カードに印刷しています。

なるべく当日お届けできるようにして、カードの裏面には一言メッセージを添えることもあ

ります。

お誕生日に届けると、「委員の方に覚えていただいて嬉しい、ありがとう」と笑顔で喜んでくださいます。

作成やお届けには苦勞もありますが、今では、高齢者の皆さんと民生委員・児童委員の間を繋ぐ大切なカードとなっており、これからも笑顔に会えるように続けていきたいと思ひます。

(秦野市民生委員児童委員協議会)

- 特集 ①仲間とともに楽しく活動！～十人十色の民生委員・児童委員、主任児童委員～
②「仕事をしながら委員活動しています」
- ひとネットワーク 子どもの“のびしろ”を開かせたい～委員OBによる子どもの学習支援～
- 解説 民生委員・児童委員のなり手確保の一助として～各種パンフレットの紹介～
- NEWS & インフォメーション(新任地区民児協会長研修会他) ●通信員だより(藤沢市・愛川町・中井町)



特集 委員voice①

仲間とともに楽しく活動!

十人十色の民生委員・児童委員、主任児童委員

令和4年の一斉改選まであと1年、みなさんはどんな想いで迎えますか。10月末日、神奈川県社会福祉センターにて、多様な経歴年数の委員で座談会を開催しました。それぞれが感じている委員としてのやりがいや魅力、大切にしていることなどを語り合い、改めて「もう1期、同じ仲間と活動した」という想いを共有することができました。

「やってみないとわからない」

桐生さん(司会) みなさんが民生委員・児童委員(以下「委員」)になった経緯を教えてください。



桐生 行雄さん (県民児協会長・海老名市民児協会長/4期目) 嫌なこともなく、みんな楽しく活動しています。「みんなでなにかができるか」とも考えていきましょう。

森井さん 推薦委員会で名前が挙がったことがきっかけです。それまで、自宅でそろばんを教えるいたり、地域の活動としては、統計調査をやっていたこともありましたが、静かに生活をしていました。声をかけられた時は、何が何だかわからないけれど、「誰かの力にな

りたい。それが私でもいいのかな？」と思い引き受けました。

春田さん 家の向かいのAさんが自治会の副会長をしていて、「春田さん、何か手伝ってくれないか」と誘われました。「『長』がつくものでなければ」と話すと、委員の話がきました。Aさんが元委員だったこともあり、「大丈夫よ、何かあったら相談して」と言われ、委員活動を始めました。

岩崎さん 在職時に上司だったBさんが近くに住んでおり、地区民児協の会長をしていました。私が定年退職して少しした頃、Bさんから「主任児童委員をやってみないか」と誘われました。子どもの支援は学生時代のボランティア活動での関わり以来で少し不安でしたが、「何事もやってみないとわからない」と、引き受けました。

「私に何ができるか」を大切に

桐生さん コロナという大きな災害の中、どんな思いで活動していますか。

春田さん いろんなことをするかわからない状態で委員になり、さらにコロナ。不安な想いを先輩委員に相談すると、「春田さんのやりたいうようにやってみよう」とアドバイスをいただきました。



春田 雅子さん (茅ヶ崎市民児協/1期目)

もっと勉強して、たくさんの方を吸収していきたいです。コロナ収束後は、高齢者のサロンのお手伝いをしたいです。

手紙を書くのが好きなので、一人暮らし高齢者や高齢夫婦世帯20

軒に手書きのお手紙を、茅ヶ崎市の情報誌などと一緒に、月一回ポスティングすることにしました。手に取ってわかりやすいように透明の袋に入れて、「ありがとう」という電話をいただいたり、ポスティングする際に「これいいね」と声をかけていただき、喜んでもらえるのが嬉しいです。

今は私からの一方通行なので、今後は、相手の悩みや不安を聴いて、双方向のやり取りができたらと思っています。



「〇〇」は親しみやすいように「〇〇さん」ではなく、「〇〇様」を込めて丁寧に書いています。

森井さん 素敵ですね。手書きはぬくもりが感じられ、「あなたのことを気にかけていますよ」という想いがより一層伝わりますね。

桐生さん コロナ禍で活動が自粛される中、中止という判断だけでなく、「私に何ができるか」を考えることがこれからの委員活動で大切になりますね。

岩崎さん 主任児童委員は市町村単位で地域を見ています。特に学

校との信頼関係が大事になります。伊勢原市では、地域連絡会（学校の先生と主任児童委員との懇談会）を開催しています。以前に比べると生徒の情報を教えてくれますが、課題のある子を見つけてサポートするのは時間がかかり、もどかしさを抱えながら活動しています。そんな中、ある母親から子どもがいじめを受けているという相談がありました。電話で何度か話を聴くうちに、母親から「話し相手がいなくて寂しかった。気持ちがいすつきりして、ほっとした」という声をいただきました。委員として、話を聴くだけでも助けになり、**負ってくださったことをやろうとしなくても相手の気持ちに寄り添うことが大切だと改めて気づきました。**

「できないこと」「できないこと」と「自分も大切にすること」

桐生さん 委員として大切にしていること、心がけていることはありますか。

森井さん 委員になってあつという間に20年を迎えました。寒川町では、3年ごとに高齢者基本調査を行っています。本来であれば昨

年行うはずでしたが、コロナで中止に。ようやく今年実施できて、4年ぶりに訪問したお宅もありました。色々なお話をしてくれて、頼ってくれているのが嬉しいです。だから私は、**いつでも話を聴ける状態であることを心がけています。**そのためにも、**健康でいること。**会長になってからは、「自分を大切に」と委員みんなに伝えていきます。



森井 順子さん

(寒川町民児協会長/7期目)

勉強するつもりで始めた委員。「みんな仲良く」をモットーに、参加してよかったと思える定例会を目指しています。

岩崎さん 委員になって**生活に充実感が増しました。**地域の人と繋がることができるのが楽しいです。また、無理なく活動を続けるために、**「できないこと」「できないこと」の線引きをする必要もある**と思います。

続けるからこそ気づく楽しさ

桐生さん 迷いや不安を抱えながらも活動を続ける委員仲間に向けて、メッセージをお願いします。

春田さん できないことに目をむけるのではなく、**自分に何ができるかを考えていくことが大切**だと改めて感じました。1期目にできなかったことを、2期目で、委員みんなで一緒に活動していきましよう。

岩崎さん 1期目だとできないことも多く、自分がやっていることに自信が持てないのではと思います。そうした時に、先輩委員に相談に乗ってもらったり、1期目同士で悩みを分かち合ったりしました。2期目になるとプラスアルファの活動ができて、信頼関係も築けるようになります。**1期目で終わるのはもったいない。続けるからこそ、委員の楽しさを感じられる**と思います。



岩崎 敏一さん

(伊勢原市民児協・主任児童委員/2期目)

活動ができない中でも、これまで築いた信頼関係を大切に違ったやり方で繋がりが続けていきたいです。

森井さん 特に、1期目の委員は、経験が浅いことに加え、コロナ禍で活動が難しいということもあり、

これでいいのかなと悩むことがあると思います。私も同じ気持ちでした。**年数を重ねるごとに、人のためになつていて、それは自分のためでもあるとわかる**ような気がして、やってみてよかったと感じます。新任委員には、定例会で声をかけたり、個別に電話したり、これまで以上にきめ細やかなサポートを心がけています。新任委員でなくても、コロナ禍でどう活動してよいか分からないという相談を受けることもあります。その時は、不安を取り除けるように声かけをしています。



続けるごとに増す委員活動でのやりがい。みんなで積み重ねていきましょう。

特集
委員 voice ②

「仕事をしながら委員活動しています」

寒さが強まる11月初旬、子ども英会話教室で外国人講師の管理や講師として勤務する正木さんに、仕事をしながら委員活動が続ける秘訣を伺いました。

「できる範囲で無理なく」

——正木さんが委員になった経緯を教えてください。

正木さん 妻が地域の体育委員（体育祭等の運営）をしていて、自分も小学校のPTA会長をしていたこともあり、当時の自治会長から主任児童委員になってほしいと誘われました。仕事をしながら活動できるか不安でしたが、「**委員同士で助け合いながら、できる範囲でやれば大丈夫だよ**」と声をかけていただけただけで、現在も活動を続けることができています。

——委員になってよかったことはありませんか。

正木さん これまで面識のなかった地域の方や委員仲間、担当した研修の講師の方など、**たくさんの人に出会えること**です。また、月に一度、地域の乳幼児の親子が交流を育む場となる「子育てサロン」



正木 和孝さん
(厚木市民児協 / 2期目)
コロナ禍でもできることを見つける“楽しさ”を大事にしています。ポスティングの際は、全民児連が作成したPRカードを活用しています。

背伸びをせず、身の丈に合った活動を大切に

——委員活動と仕事の両立のため心がけていることはありますか。

正木さん 委員活動は多岐に渡るため、「**自分ができるところから、背伸びをせず、身の丈にあった活動**をすること」を心がけています。よかれと思ってやったことがいつ

で、日頃の悩みや不安等を伺う中で「来てよかった」との声を聞くのが嬉しいです。**子どもと関わる仕事の経験を委員活動に活かして、楽しみながらやっています。**

「できること」目を向けて

——委員仲間に向けて、メッセージをお願いします。

正木さん まずは、できることに目を向けて活動していただきたいと思っています。また、地域のつなぎ役として「**専門機関につなげられたら成功！つないだあとは遠くから見守りましょう**」とも伝えたいです。できることに目を向けると自然と前向きになれます。できたことを自ら評価し、仲間同士、互いにたたえ合うことも大切です。これからも一緒に活動していきます。

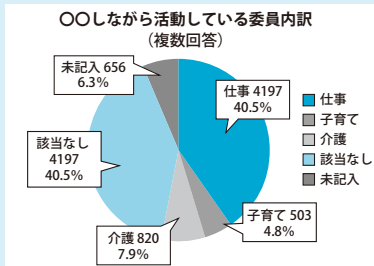
の間にか当たり前になり、それが負担になってしまうこともあるので、**頑張りすぎず、メリハリをつける**ことが大事だと思います。

——活動を継続しやすくするため必要なことはありますか。

正木さん 委員になって5年が経ちました。委員仲間や家族等の理解や協力があるからこそ、仕事をしながら活動できていますが、研修のほとんどが平日の昼間なので、参加することが厳しく残念です。是非、動画やDVDによる受講等の機会を増やしてほしいです。

「仕事・子育て・介護をしながら活動している民生委員児童委員に関する調査報告書」をご覧ください！

県社協民生委員児童委員部会では、「仕事・子育て・介護をしながら」（以下、「〇〇しながら」）活動する委員の現状を調査し、「〇〇しながら」でも委員活動できるための「11の要素」を整理し、報告書としてまとめています（令和3年6月発行）。すべての委員の活動のしやすさにもつながる要素と考えられますので、ぜひご覧ください。



県内委員9,626名のうち、約半数が仕事、子育て・介護を行い、重複して行っている委員が7.2%いることがわかりました。



民生委員児童委員部会とは… 県社協の会員となっている、県内（県・政令市）の民児協が、様々な地域性や幅広い委員活動から得る多様な情報や知恵を集結し、交流、情報交換など、スクールメリットを活かした取り組みを行っています。

ひとネットワーク
地域と社会資源

子どもの「のびしろ」を開かせたい ～委員OBによる子どもの学習支援～

「ちがさき開智舎 のびしろクラブ」の取組み紹介



「のびしろ」を大切に

茅ヶ崎市香川の民家で地域の子どもたちに無料の学習支援を行うボランティアグループ『ちがさき開智舎 のびしろクラブ』。この団体は民生委員・児童委員を7年務めた経験を持つ、井上忠義さんが平成29年6月に立ち上げました。

定年後、自治会活動や委員活動のほか、公共職業安定所での職業紹介、福祉事務所での生活保護受給者の就労支援などに関わりました。その中で、学齢期からの基礎学習や心の成長の大切さを実感し、以前、井上さんのご両親が住んでいた空き家を活用して学習支援を



代表の井上忠義さん。
「これまでの経験全部が、活動するための背中を押してくれています」

スタートしました。「すべての子どもが生まれながらに持つ『のびしろ』を探し出し育てることを第一義とする」という思いから、「のびしろクラブ」と命名しています。

子どもの笑顔が エネルギーの源

学校の勉強につまづく子どもにも、それぞれに合うスピードや方法で教えることで、成長する姿を見ることができます。分からなかったところが理解できたとき、子どもは満面の笑みとガッツポーズで、「わかる喜び」を表現してくれる。

その笑顔が何よりのエネルギーの源と話す井上さん。効率よくやるための勉強ばかりで「勉強はできても、心の成長が不完全なアンパランスの人」になるのではなく、心も成長するよう、生の音楽や演劇に触れる機会も提供しています。

これからやってみようことは、紙芝居クラブを結成して高齢者施設を訪問したり、楽器を集めて合奏

隊を結成し、地域のイベントなどで発表したりすること。これまでの活動に心血を注いでいるからこそ、構想はどんどん発展します。こうした構想を仲間と共有することで、これまでも着実に実現してきました。



元気にやってくる子どもたちに、個別に丁寧に教えます。

大事にすると広がる人の縁

活動立ち上げの仲間集めに際して、最初の2～3年は苦労もしましたが、民児協や社協のつながり、口コミのほか、市や自治会の広報誌にも掲載してもらい、20名ほどの仲間が集まってくれました。立ち上げ時には当時の地区民児協会長も尽力され、今ものびしろクラブの広報誌づくりに協力いただいています。

学習支援だけではなく、近隣住

民や手芸の得意な方からのボランティア申し出など、現在も仲間が広がり続けています。



イラストも素敵で素敵な季刊の広報誌

ホームページから閲覧できます

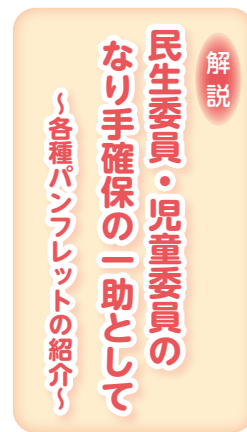


自分の生きてきた経験を 次の世代へ

「子どもは地域の子であり、社会の子である」ということ、そして「生きているということは、それだけのキャリアがある。その中で得た経験を次の世代へつないでいきたい」という思いから、子どもと大人とが関わり、ともに成長していく場を創造しています。

* * *

委員としてだけではなく、井上さんの様々な経験から培った知識や人的ネットワークによって活動や人の輪が生き生きと広がる様子が伺えました。人の想いに人が引き寄せられ、発展していくチカラになる様子から、退任後にも地域で活動する委員の力強さを感じる事ができました。



表紙デザイン (A3両面2つ折り)

新パンフレット作成中

次期一斉改選に向けて

地域共生社会の実現に向け、住民にもっとも近い相談相手である民生委員・児童委員への期待は大きなものとなっています。一方で、その期待が高いゆえに、役割を担うことへの負担感や大変だというイメージなどにより、なり手確保が難しい状況にあります。

そこで、本会では、令和4年の一斉改選に向けて、民生委員・児童委員とは何か、やりがい・魅力・楽しさを知ってもらうためのパンフレットを新たに作成しています。

作成のポイント

今回のパンフレットは、自治会や候補者への説明用としてお使いいただけるよう作成しています。多くの市町村では、自治会からの推薦により候補者が選定されます。しかし、自治会が民生委員・児童委員の役割をきちんと理解してい

活動の楽しさを伝えたい

ただき、委員就任後のミスマッチを防ぐものを目指しています。

パンフレット作成にあたり、役員会で内容の検討を進め、5名の現任委員にメッセージをいただきました。作成にご協力いただいた寺下さん(大井町民児協会長)は、「委員になって、たくさんの人と出会い、生活に豊かさが増します」と言います。この他にも、活動のやりがいや伝わるメッセージが掲

〈住民説明用パンフレット〉

活動をわかりやすく紹介しています



〈やさしい日本語版パンフレット〉

日本語の理解が難しい方でもイメージしやすいイラストを選びました

やさしい日本語とは…
「簡単な言葉を使う」「一文の長さを短くする」など日本語が母国語でない人などが理解しやすいよう配慮した日本語のことです。



県民児協HP (委員専用ページ)

載されますので、完成を楽しみにお待ちください。

本会がこれまで作成したパンフレット紹介

住民説明用パンフレット

コロナ禍で様々な活動が制約を受ける中、ポスティングでの見守り活動が増えたのではないのでしょうか。そんな時、地域住民に「民生委員・児童委員とは何か」「どんな相談をしたらいいのか」等をおかりやすくまとめた「住民説明用パンフレット」を活用いただけます。氏名や連絡先を記入でき、3つ折りポストに投函しやすい形になっています。

やさしい日本語版パンフレット

多くの外国人が暮らしている本県において、外国人をはじめ、子どもや障がいのある方など、日本語の理解が難しい方にも、民生委員・児童委員のことを知ってもらい、気軽に相談してもらえよう、昨年、「やさしい日本語版パンフレット」を作成しました。

簡単に分かりやすい日本語を用い、イラストや英訳を交えながら意図が伝わる工夫をしています。また、「かながわ多言語支援センター」と連携し、日本語での意思疎通が難しい場合や、外国人ならではの生活相談をつなげられるようにしています。

本会ホームページの委員専用ページからダウンロードできますので、ぜひ、ご活用ください。

NEWS&インフォメーション

令和3年度

新任地区民児協会長研修会

令和元年12月の一斉改選後に新たに地区民児協会長となった委員を対象とした研修会を、同一内容で9月21日(火)は集合にて(やまと芸術文化ホール)、9月28日(火)はオンラインにて実施しました。

星槎大学教授の大溝茂さんを講師としてお招きし、地区民児協会長の役割や地区民児協運営の方法など、元地区民児協会長としての経験を交えた実践的なご講義をいただきました。

大溝さんは「会長だからといって、なんでも背負わないこと。会長として、相談しやすい・話しかけやすい環境づくりを心がけ、委員一人ひとりの居場所をつくること」が大切」と受講者に熱く語りかけました。

また、先輩にあたる地区民児協会長からのエールとして、綾瀬市民児協会長二ノ宮さん、湯河原町民児協会長梅原さん、小田原市足



講師の大溝茂(おおみぞしげる)さん「会長は「舵取り役」。民児協という船の進路を導く要の存在として、自分らしい会長像を描いていきましょう。」

柄地区民児協会長瀬戸さん(28日のみ)の3名にお話しいただきました。

二ノ宮さんからは「会長でも同じ委員なので、対等な立場で真摯に向き合うことが大切」、梅原さんからは「心身ともに健康であること、挨拶など基本的なことを疎かにしないこと」、瀬戸さんからは「無理をしないで、困ったときは、委員仲間や他地区の会長同士で共有すること」など、ご自身が大切に行っていることや同じ会長の立場から、ともに活動していきたいとの励ましをいただきました。

研修の最後に、大溝さんは「会長1期目の半分を終え、模索しながらも活動してきた自分自身への

ねぎらいを忘れずに、決して一人で抱え込まないでください」と優しい眼差しで呼びかけました。

受講者からは「会長となっても、地域の身近な相談役であること、専門機関へのパイプ役として役目を果たすことの大事さを改めて感じた」、「日頃の活動を大事に住民に寄り添った活動を続けていきたい」など、今後の意気込みも聞かれました。また、「二委員として、原点を振り返ることができる研修となった」との声も聞かれました。



エールをいただいた地区民児協会長のみなさん。左から、二ノ宮さん、梅原さん、瀬戸さん。

※本研修は、本来であれば、昨年度実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、今年度開催となりました。

全社協情報誌「ひろば」に南足柄市民児協が紹介されました

全社協発行の「民生委員・児童委員のひろば(令和3年11月1日発行)」にて、南足柄市民児協も連携する生活支援活動「おたがいさまネットおかもと」の取り組みが紹介されています。全民児連HPの委員専用ページからもご覧いただけますので、ぜひご一読ください。※パスワードは「ひろば」最終頁をご参照ください。

〔県社協 民生委員児童委員部会〕 ニュースレター 閲覧できます！

部会では、コロナ禍でも委員が変わらずに大切に行っていることや工夫していることについて、地域を超えて課題や想いを共有するための「ニュースレターMINSEI」を順次発行しています。詳しくは、県社協のHPをご覧ください。



V o l . 3 まで発行しています



県社協HP

通信員だより

藤沢市

生活支援ロボット体験

通信員 阿部川 扶美子

六会地区障がい者部会では、生活支援ロボットの利用に取り組み「ロボットラス（藤沢市辻堂）」に研修に行ってきました。ここでは生活支援に役立つロボットを見たり、触れたりして実際に体験できる場所です。私達は人と会話ができたり、ペットのように動いたりする「癒し系ロボット」や人が乗れる電動の移動機器、買い物などに使えるアシストカート、重いものを持つ時に腰やひざの負担を軽減するマッスルスーツ及び体全体を使うPCゲーム等様々な機器を視察し、体験することができました。

これらの生活支援ロボットは病院や介護施設、養護学校などで使われています。また、電動アシストカートは福祉用具として介護保険での貸与が適用されます。

使用することで日常生活の行動範囲が広がり、社会参加の機会が増えることは生活の質の向上につながります。高齢者や障がい者のために技術を開発し、利用者がさらなる課題を見つけパワーアップしたロボットができることを期待します。

SDGs※の「すべての人に健康と福祉を」は生活支援ロボットも担っていることを学んだ研修でした。



マッスルスーツ着用体験

※SDGsとは、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。

愛川町

コロナ禍でも出来る支援活動

通信員 小曾根 潔

愛川町では、コロナ禍でも、委員それぞれの地域状況に合わせた出来る事を考え、小さな事から、一つずつ積み重ね、個別支援を行ってききました。

移動が不自由な一人暮らし高齢者の代わりに、次亜塩素酸消毒剤を引き取り、自宅に手渡しで配布をしました。

また、委員みんなで協力し手作りした布マスクや、不織布マスクを、個別に配布などもしました。

委員一人一人の判断で、担当地域の人々の状況に合わせた活動をこまめに行う事を、町民児協で申し合わせのうえ、活動しています。

特に、非接触的な対応支援の提言時も、十分な感染対策を取りながら、一人暮らし高齢者が孤立しないように、個別訪問も出来る限り行っています。

子育て支援については、規制が厳しく十分な支援が出来ませんでした。人数制限付きの子育てサロンは、少しずつ元の状態に戻りつつあります。

これからも、愛川町民児協は、創意工夫をしながら臨機応変な対応を、みんなで一緒に進めていきます。



次亜塩素酸消毒剤をお届けしました

中井町

「ありがとう」に励まされ

通信員 早田 恵美子

「ありがとう」という高齢者の言葉と笑顔に励まされ、高齢障がい福祉部会の委員は、今年もお便り『わたがし』を作成しています。

きっかけは4年前、部会の委員に対して行ったアンケートの中に、訪問先での高齢者との会話が円滑に進まず、また情報提供する資料も少なく、困った」という声があったことでした。

そこで、地域の方々との絆づくりの一助として、更には更りある訪問活動を行うために、お便りの作成に至りました。

発行は、7月・12月・3月の年3回、A4判両面印刷のお便りです。部会員13名による企画・校正会議並びに小グループによる編集会議・印刷を経て、地区の担当委員から高齢者にお届けしています。記事は3つほどに絞り、注意喚起や啓発、心穏やかな記事などを取り上げ、文字は大きく、読みやすい紙面を心がけて作成しています。



令和3年7月号『わたがし』をお届けしました。

これは、一つの活動にすぎませんが、訪問活動の一助になっただけではなく、委員同士の相互理解が深まる機会にもなっています。

ホームページをご活用ください！

☆県民児協ホームページでは、民生委員・児童委員制度や活動に関する参考資料などを掲載しています。委員専用ページをご覧いただくためには、次のログイン情報をご入力ください。

